

## 互いの間に愛があるなら

(ヨハネ13・31～35)

## 一、愛することの出発点

34節をご覧ください。「わたしはあなたがたに新しい戒めを与えます。互いに愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。」と、主イエスはおっしゃいました。〈戒め(エントレー)〉は、新共同訳では「掟」と訳出されています。聖書協会共同訳は「戒め」です。ちなみに新改訳では、同じことばが、「命令」と訳されています(一ヨハネ5・3)。もし旧約聖書にこのことばが記されていたら、「律法」を指します。ところが主イエスが語られたのは、それまでの「律法」とは別のものであるため、〈新しい〉ということばを使われませんでした。しかも、「新しい律法を与えます」とおっしゃったのではなく、〈新しい戒めを与えます〉とおっしゃいました。では、〈新しい戒め〉とは、どういう意味で「新しい」のでしょうか。それは、34節後半より分かります。〈わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。〉がそうです。言い換えるなら「イエスさまが私たちに愛されたように、あなたがたも互いに愛し合いなさい」という戒めです。主イエスは私たちを愛し、十字架の道を

歩み、十字架の上で私たちの罪をその身に負われました。皆さまは、そして私は、自分が所属する教会の教会員たちのために、いのちを捨てることはできません。『あの人のためだったら、自分が犠牲になってもかまわない』という方が、あるいはおられるかも知れません。ですが、そういう教会員であっても、「この人」のために私の人生が犠牲になるのは、いやです。できません。というのが、正直なところではないでしょうか。私はこう思います。主イエスがおっしゃった〈新しい戒め〉である、〈わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい〉の出発点は、「私はできない」と認めることであると。そう認めるなら、偽りを言うことにはなりません。ですが、「私にはできません」で止まってしまったら、主が新しい戒めとして語られたことは実現されません。

## 二、神のことばと聖霊により

では、どうしたら、〈わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい〉を、みこころに適切な形で行うことができるのでしょうか。それは、主イエス・キリストを、神が遣わされた、罪からの救い主と信じてことです。するとあなたは、そして私は、神の御力によって、罪の引力をはるかに上回る神の御力によって引き上げ

られます。私たちが歯を食いしばって、「〇〇さんを愛することができないのですが、愛します」と語って、努力するとします。そういう方は「立派なクリスチャン」なのでしょうが、私はそういう信仰者にはなりたくありません。そもそも、神のみこころを行うのは、いやいやながら行うことではありません。喜んで行うことです(一ヨハネ5・3)。また、神のみこころに従う私たちは、霊において新しく造られた者です(二コリント5・17)。主イエス・キリストを信じた時に、基本的に罪の問題が解決されました。なぜなら、主イエス・キリストが聖書に書いてあるとおりに、私たちの罪のために死なれ、葬られ、三日目によみがえられたからです。皆さまの罪は、私の罪は、キリストと共に葬られ、新しい人がキリストと共によみがえられました。そういうわけで、人が主イエス・キリストを信じますと、霊という、その人の人格の最も深い部分が、罪人でなくなりました。神のみこころに適ったかたちに変えられました。ですから、「私が良い行いをしている」ではなく、「新しくされた私が、みこころに適った行いをしている」と気づくわけです。そこには、何の気負いもありません。

## 三、教会に愛があるなら

35節をご覧ください。〈互いの間に愛

があるなら、それによって、あなたがたがわたしの弟子であることとを、すべての人が認めるようになります。〉とあります。私共の教会には、愛があるでしょうか。そのように言われると、教会に属している私たちは、「私たちは互いに愛し合っています」とは、なかなか言えないものです。神に召されて、教会に属している人たちは、罪赦された罪人です。そうしますと、「あの人からこんな仕打ちを受けた」とか、「この教会には愛がない」と批判して出て行ってしまおう方が、残念なことですが、出てまいります。そのようなときに、どう受け止めたら良いのでしょうか。教会から出て行ってしまおう人がいないに越したことはありません。必要以上にながかりする必要はないと思います。「この教会には愛がない」と批判されたり、「たしかにそういうところがあるのだろう」と貞摯に受け止めて、反省すべきは反省したら良いと思いません。何せ、生まれながらの性質は古き人であって、神から離れているからです。そういう古き性質、「肉」の性質を、私たちは、キリストを信じた後も抱えています。ですが、主イエス・キリストを信じているなら、言い換えるなら主イエス・キリストに真実を尽くしているなら、そこに愛があるのも事実です。なぜなら愛は、私たちがから出るのではなく、神から出るものだからです(一ヨハネ4・7)。